

兵庫・入佐川遺跡  
いるさがわ

- 1 所在地 兵庫県出石郡出石町宮内
- 2 調査期間 一九九二年(平4)五月～一二月、二一九九五年五月～一二月
- 3 発掘機関 兵庫県教育委員会
- 4 調査担当者 一 大平 茂・村上泰樹・柏原正民  
二 大平 茂・鈴木敬二
- 5 遺跡の種類 祭祀跡・水田跡・城下町跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～平安時代・室町～安土桃山時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(出石)

入佐川遺跡は、兵庫県の北部、豊岡市街地の南東約七kmに位置し、円山川の支流である出石川と入佐川に挟まれた沖積低地(水田)部に立地している。標高は五～六mである。遺跡の北東の丘陵には山名氏宗家の居城である此隅山城跡があ

り、南東の高台には天日槍で著名な但馬国の一宮出石神社が鎮座している。さらに、この丘陵の北の谷部には大量の木製祭祀具が出土した律令期の砂入遺跡・袴狭遺跡が見つかっている。

調査は、前記した砂入・袴狭遺跡発見の契機となった小野川放水路事業に伴うものである。これまでの調査で、注目される遺構には古墳時代中期の河道を利用した貯木施設と、同時代の水路に伴う祭祀跡、平安時代の橋脚遺構などがある。

今回報告する地点は、入佐川遺跡の第一次、第四次調査区にあたる。調査面積は、それぞれ一万一四一四㎡、六三三二㎡である。

一 第一次調査

検出した遺構は、弥生時代～古墳時代の河道・溝・井堰と水田跡・祭祀跡、奈良時代～平安時代の河道・溝と橋脚、中世の溝（条里に伴うもの）などである。また、遺物には古墳時代の祭祀跡から出土した石釧、平安時代の河道から出土した墨書土器（中）、木製人形・馬形・斎串などの祭祀具がある。

木簡は、中世の溝の上層部から一点出土している。伴出遺物には漆器・陶磁器などがある。

二 第四次調査

入佐川遺跡調査地点の最も上流域にあり、一部此隅山城下町跡である宮内堀脇遺跡（本号六九頁参照）とも重なっている。

検出遺構は、古墳時代から平安時代の河道・溝と水田跡、室町時

代後期の武家屋敷跡である。武家屋敷跡は整地と溝によって区画された建物、堀、土塁で構成されている。

木簡は、平安時代の溝から一点と、武家屋敷跡の堀から三点の合計四点が出土している。堀からの伴出遺物には、陶磁器、土師質皿、漆器・箸・絵馬などの木製品がある。

8 木簡の釈文・内容

一 第一次調査

- (1) ・ 為清覚坊法〔印カ〕井〔はこカ〕道〔はこカ〕  
〔梵字〕 〔梵字〕 (254) × (49) × 4.5 081

これは、上流部の此隅山城下町から流れ込んだものであろう。

二 第四次調査

平安時代溝

- (2) □ 塩州六□人三 (212) × 29 × 11 081

武家屋敷堀

- (3) 「〇十一月巷斗七合 かふや」 281 × 37 × 5 051  
 (4) 「五千式四拾式〔百脱〕」 61 × 18 × 2 011  
 (5) 「>□□□□□」 (107) × (20) × 5 039

(2)は平安時代の溝から出土した。五文字めは「右」あるいは「古」か。(3)～(5)は武家屋敷の堀から出土したが、(3)と(4)は同一の堀出土である。(3)は荷札木簡であり、最下部の文字は「あふや」とも見える。隣接する宮内堀脇遺跡に、内容、形状とも類似したものがある。なお、此隅山城は一四世紀後半に築城されたと言われ、永禄一二年(一五六九)織田軍の但馬侵攻によって落城している。

釈読については奈良国立文化財研究所館野和己・渡辺晃宏・古尾谷知浩氏のご教示を得た。

9 関係文献

兵庫県教育委員会『ひょうごの遺跡』一四(一九九四年)

(大平 茂)